

# 永田屋の歴史

— 過去 —  
創業から  
100年の  
あゆみ

— 現代 —  
葬祭業界の  
“新しい老舗”

— 未来 —  
次の  
ステージへ

## 大正2年

創業者・田中永太郎の名前である「永」と「田」から取り、名付けられました。永太郎が大工兼葬具業を始めたこの時から、永田屋の長い歴史は始まる。

## 昭和30年

激動の戦後を乗り切り、資本金50万円で「有限会社永田屋商店」として法人化。

## 昭和55年

資本金を500万円に増資し、葬儀・仏壇・造花と、それぞれの部門に分ける組織変更を行い、翌年には相原に仏壇の倉庫を建設し、物流の拠点を確立。本格的な葬儀社として再スタート。



関東大震災で倒壊したお寺の山門の修復に永田屋が携わった



昭和30年頃の永田屋(相原)



昭和55年頃の仏壇の永田屋(相模原市橋本)

## 平成5年

緑区橋本に「セレモニーホール永田屋」をオープン。社会福祉協議会へ寄付を開始。

## 平成12年

家族葬専用式場の「セレモニーホール永田屋 別館」をオープン。

## 平成14年

地域の皆様へ日頃の感謝を還元する催しとして、初のビッグイベントとなる「感謝祭」を開催。葬儀について事前に考えてもらうきっかけとして「終活なるほど教室」を開催。また、子供、親子向けに、日本の精神文化を体験してもらうための「夏休み坐禅教室」を始める。

## 平成15年

相模原市中央区に「永田屋富士見斎場」をオープン。

## 平成19年

家族葬専用式場の「永田屋富士見斎場 別館」をオープン。

## 平成23年

東日本大震災の復興支援として、日本赤十字社に寄付を開始。今もなお継続している。震災直後には、当時の会長と専務が実際に現地で復興支援を行った。



## 平成24年

永田屋富士見斎場をリニューアル。いつでも気軽に葬儀の相談ができる環境として「相談サロン&ショップ」をオープン。



## 平成25年

永田屋が創業100周年を迎える。杜のホールはしもとで100周年記念式典を開催。桂歌丸師匠による特別講演を実施。

ハウスエンディング®をコンセプトに、南区に「メモリアルハウス小田急相模原」、緑区に「小さな家族葬ハウス®」をオープン。後にそれぞれ商標登録をする。

## 平成28年

税務署から優良申告法人として3度目の表彰を受ける。緑区に「メモリアルハウス城山」をオープン。永田屋の取組がメディアで取り上げられ、テレビ放送される。仏壇店が大規模なリニューアルオープン。

## 平成29年

新卒採用をスタート。

## 平成30年

緑区に「メモリアルハウス西橋本」をオープン。

105周年記念事業として、林家木久扇さん、木久蔵さん親子による「親子会」を開催。

ご遺族のサポート事業として分かち合いの会「サンサーラ」を開始。

式場を災害時に帰宅困難者の受け入れ施設とする、相模原市との災害協定を締結。

個人情報保護の「プライバシーマーク」を取得。



林家木久扇さんによる「親子会」

## 令和2年

町田市木曾に直営式場6拠点目となる「小さな家族葬ハウス®町田木曾」をオープン。

## Stage.1

実績・満足度共に地域No.1の葬祭サービス企業になる。



## Stage.2

葬儀の知見を活かし、地域の頼れるライフパートナーとなる。



## Stage.3

葬祭業界全体のレベルアップに寄与し、若い世代から憧れられるような職業にする。



## Stage.4

地域に応援される存在として、誰もが残したいと思う永続企業へ。

